



「算数教育の新時代を拓く ―第1回部報によせて―」

算数科研究部 顧問 相生小学校長 小林 延和

本年度も浜松の子供たちの算数への興味を育むべく、本研究部が始動しました。さて、近年の算数科教育を取り巻く環境は劇的に変化しています。特に生成AIの急速な普及により、単に「正解に辿り着く力」の価値が相対化され、代わりに「なぜそうなるのか」というプロセスを言語化する力や、導き出された解の妥当性を批判的に吟味する力が、より一層重要視されるようになりました。

また、算数は独立した教科ではなく、理科や社会、プログラミング等と横断的に繋がるSTEAM教育の土台としての役割も期待されています。日常生活の事象を数理的に捉え、データに基づいて判断する「データサイエンス」の視点を、いかに低学年からの学びの中に自然な形で組み込んでいくか。これは、予測困難な時代を生き抜く子供たちに我々が授けるべき、最も強力な武器の一つと言えるでしょう。

「1人1台端末」が定着した今、デジタルならではの試行錯誤と、ノートに思考の軌跡を残すアナログの良さを融合させた、新しい授業の形を模索する時期にきています。本研究部が、先生方にとって切磋琢磨し合える貴重な研鑽の場となり、その成果が各校の授業改善に還元されることを期待しております。一年間、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

## 第1回 浜松市教育研究会 算数科研究部研修会のお知らせ

1 日時 令和8年5月27日（水）15:00～16:30

2 会場 浜松市立都田南小学校

3 内容

- 本年度の研修計画
- 講話 浜松市教育委員会指導課 土屋 指導主事

4 その他

- 今回の役員当番部会は、4部会です。4部会の先生方には詳細をT-portにて別途お知らせしますので、よろしくお願いいたします。
- 駐車場に限りがありますので、乗り合わせでお越しください。また、当日は、駐車場系の指示に従って駐車をお願いします。

担当 可美小 荒熊 千佳

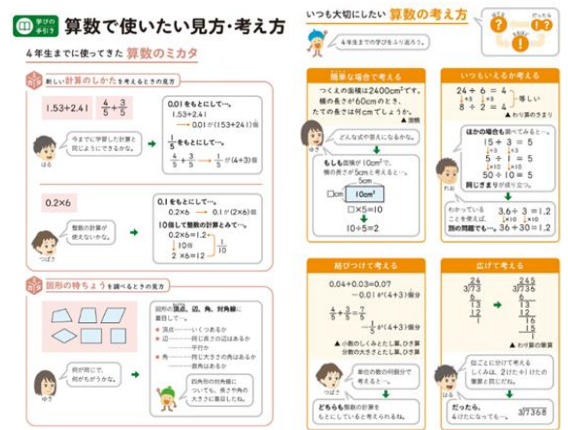
# 数学的な見方・考え方を意識して

算数科研究部長 浜松市立与進北小学校 馬淵 達也

1年の最初の算数授業の中で、教科書の数学的な見方・考え方について解説されているページを紹介し、このページを確認することで、子供たちは、これまで学習してきた大切なことを振り返ることができるだけでなく、新しい学年でも、これまでと同じように学習していけばいいことが分かります。私たち教師にとっては、算数が系統的に大切にしていることや、どのように見方・考え方を働かせればいいのかを知ることができます。もしよろしければ、ご覧になってください。

算数科研究部の研修会では、毎年先生方の興味深い実践内容や、授業のネタを知ることができます。講師の先生からの講話では、様々なアイデアをいただくことができます。ぜひ、自分自身のこれまでの授業を振り返り、明日の授業改善に役立てていただければと思います。

今年度から部長を務めさせていただくことになりました。先生方にとって実りある研修会が企画・運営できますよう、役員一同力を合わせて頑張ります。よろしくお願いいたします。



# 楽しく算数の決まりを見付けよう～九九おみくじ～

部報編集委員会 担当副部長 浜松市立可美小学校 荒熊 千佳

算数が好きになるためには、「分かった」「できた」を実感することが大切だと考えます。高学年になるにつれ、学力の差が開き、算数が苦手だと感じる児童も増えてきます。そこで、授業開きでは、算数が苦手な児童にも「算数っておもしろい」と感じてもらえるように、「新年度最初の運試し～九九おみくじ～」という実践を行ったので紹介します。

- ① 九九を1つ書く。 (例:  $3 \times 4 = 12$ )
- ② その九九のかけられる数とかける数にそれぞれ1を足した九九を書く。 (例:  $4 \times 5 = 20$ )
- ③ ①と②の積の差が10だったら大吉。

「先生は差が8だったらから、大吉にならなくて悔しいな。大吉になった人はいますか。」と問いかけると、学級で2, 3人は大吉の児童がいます。その児童の九九を紹介し、大吉になる九九をみんなで探していきます。決まりを見付けやすくするために、板書を工夫して書くと、多くの児童が大吉になる九九を見付けることができます。

この九九にはどんな決まりがあるか問うと、

「大吉になる九九を見付けたら、その九九のかけられる数とかける数を入れ替えたらもう1つ見付けられる。」「かけられる数とかける数を足して9になれば大吉になる。」と、児童から様々な意見が出ました。

さらに、「積の差が11になる九九が大吉ならどうなるかな。」と問うと、「積の差が10になるためには、かけられる数とかける数を足して9になればよかったから、今度は、かけられる数とかける数を足して10になればいい。」と発展的に考えることができました。

「九九おみくじ」は、算数の能力ではなく、運で大吉になることができるので、算数が苦手な児童も授業に参加しやすいと思います。今後も児童が「算数が好き、おもしろい」と感じるができる実践を研究していきます。

